

接続助詞 確認テスト（「ば」の仮定・確定ほか） | 定期テスト対策 | 誰でも古典塾 解答・解説

問1 順接仮定条件／未然形。「降ら」はラ行四段「降る」の未然形。「もし雨が降るならば」の意。

問2 順接確定条件／已然形。「吹け」はカ行四段「吹く」の已然形。「風が吹くと（吹いたので）」の意。

問3 順接確定条件／已然形。「来れ」はカ行変格「来（く）」の已然形。「春が来ると（来ると決まって）」の意で、ここは恒常条件（～いつも）。

問4 逆接仮定。「たとえどんなに恨んでも」の意。「～とも」は未然形・終止形などに付き、まだ起きていない事柄を仮定して逆接する。

問5 「たとえどんなに恨んでも、あなたは心を変えるまい（変えないだろう）。」逆接仮定「とも」＋打消推量「じ」。

問6 逆接確定。「ども」は已然形に付き「いくら～けれども」の意。「これほど切に頼りにしたけれども」。

問7 「たいそう切実に頼りにしたけれども、とうとう来なかった。」逆接確定「ども」。

問8 逆接確定。「ど」も已然形に付き「～けれども」。「月は出たけれども」。

問9 「道がわからないで、一晩中迷い歩く。」打消接続「で」＝「～ないで」。

問10 並行（同時進行）。「笛を吹きながら（吹き吹き）」の意。「つつ」は動作の並行・反復を表す。

問11 並行（同時進行）。「物思いをしながら」の意。「ながら」が動作の同時進行を表す例。

問12 逆接確定。「ものの」は「～けれども・～とはいふものの」の意。「裕福ではあるけれども、心は常に貧しそうだ」。

問13 「言はば」は順接仮定条件／未然形。「言は」はハ行四段「言ふ」の未然形で「言うならば」。あとの「思へど」は已然形＋「ど」で逆接確定。未然形＋ばと已然形＋（ば／ど）の対比に注意。

問14 順接確定条件／已然形。「思へ」はハ行四段「思ふ」の已然形。「（長生きしたいと）思うので」の意。

問15 未然形＋ば（仮定）の例＝①（または⑪の「言はば」）。已然形＋ば（確定）の例＝②・③・⑫のいずれか。

問16 逆接（逆接確定）。「名は聞いているけれども、まだ顔を見ない」。同じ「ながら」でも、⑨は並行、⑬は逆接で、文脈で判断する。

問17 ⑭「越えて」＝単純接続（動作の順序を示す「～て」）。⑮「かかげて」＝単純接続（手段・状態を添える「～て」）。いずれも順接・逆接の意味を強く持たない単なる接続。

問18 ⑦「知らで」＝打消接続／未然形に接続（「知ら」は四段未然形）。「道を知らないで」。⑯「書かで」＝打消接続／未然形に接続（「書か」は四段未然形）。「手紙も書かないで」。「で」は「～ないで・～ずに」と訳す。

問19 ②「風が吹くと、花が散ってしまった。」(已然形+ばの確定条件)。①「もし雨が降るならば、川の水が増すだろう。」(未然形+ばの假定条件)。

問20 未然形+ば=順接假定条件で「もし～ならば」と訳す(まだ実現していない事柄を假定)。已然形+ば=順接確定条件で、原因・理由「～ので」、偶然「～と・～ところ」、恒常「～といつも」のいずれかで訳す(すでに実現した、または一般的に成り立つ事柄)。

問21 「とも」は逆接假定条件で「たとえ～ても」と、まだ起きていない事柄を假定して逆接する。「ども」は逆接確定条件で「～けれども」と、すでに成立した事柄に対して逆接する。接続も「とも」は未然形・終止形など、「ども」は已然形と異なる。